

厚生労働省 介護のしごと魅力発信等事業  
『アクティブシニア層向け魅力情報発信事業』

イベント企画案およびご協力をお願い

2019年 8月



# 事業の目的と実施概要

本事業では、人手不足問題が深刻な介護業務への新規雇用創出に向け、就労意欲のあるアクティブシニア層をターゲットとした「介護しごとの魅力発信イベント」を開催、「アクティブシニア層を介護のしごとに誘導するプログラム・メッセージ」を工夫する形で発信し、その有効性を検証することを目的として実施します。

## 1. 本事業の目的

少子高齢化、平均寿命の延伸により「人生100年時代」とされる中、シニア層が活躍できる社会の創造が求められている。シニア層の労働参画は、我が国の人手不足問題解決に向け重要な役割を果たし、特に課題感が強い業種や地方においては、大きな追い風となることが期待される。

人手不足が深刻な介護業においては、今後一層の増加が見込まれる介護需要を満たすために、新たな介護人材の確保が求められているものの、いわゆる「身体的、精神的にきつい」といったネガティブなイメージもあり、他業界と比べ、人材確保が難しいといわれている。

そこで本事業では、「**アクティブシニア層を対象に、介護のしごとに対する理解促進・イメージアップのための体験型魅力発信イベントを全国で開催**」する。イベントは、「からだ測定」(興味、体力、処理力等の計測) から始まり、結果に基づいた「向いている介護業務」の提示、しごとの体験、介護職の求人情報紹介の流れで実施し、介護のしごとについての誤解払拭とともに、「やってみよう」という意識醸成を狙う。

また、イベントによるアクティブシニア層の意識・行動変化を分析し、就労意欲向上及び介護現場への誘導を目的とした魅力発信方法の効果を実証する。

## 2. 本事業概要

### 1. 企画委員会の設置

- ✓ 現実に即し、且つ訴求性の高い効果的な内容とすべく、その方針・内容などについて有識者からご意見を頂戴し、事業に活かす。
- ✓ 当該魅力発信イベント等の企画内容の検討に加え、事業効果の検証方法、情報発信媒体(広報、プロモーション含む)や、その他の成果物(イベント企画・運営マニュアル、事業成果報告書)の内容検討を行う。
- ✓ 事業期間中、計5回開催することを想定。

### 2. イベントの企画・実施

- ✓ アクティブシニア層への介護のしごとの魅力発信や意識変容を目的として、体験型・参加型イベントを開催する。
- ✓ イベントは計8回程度を、前半と後半に分けた2サイクルで実施することを想定し、前半で得られた反省を後半のイベント開催に活かす。

### 3. イベント企画・運営マニュアルの作成

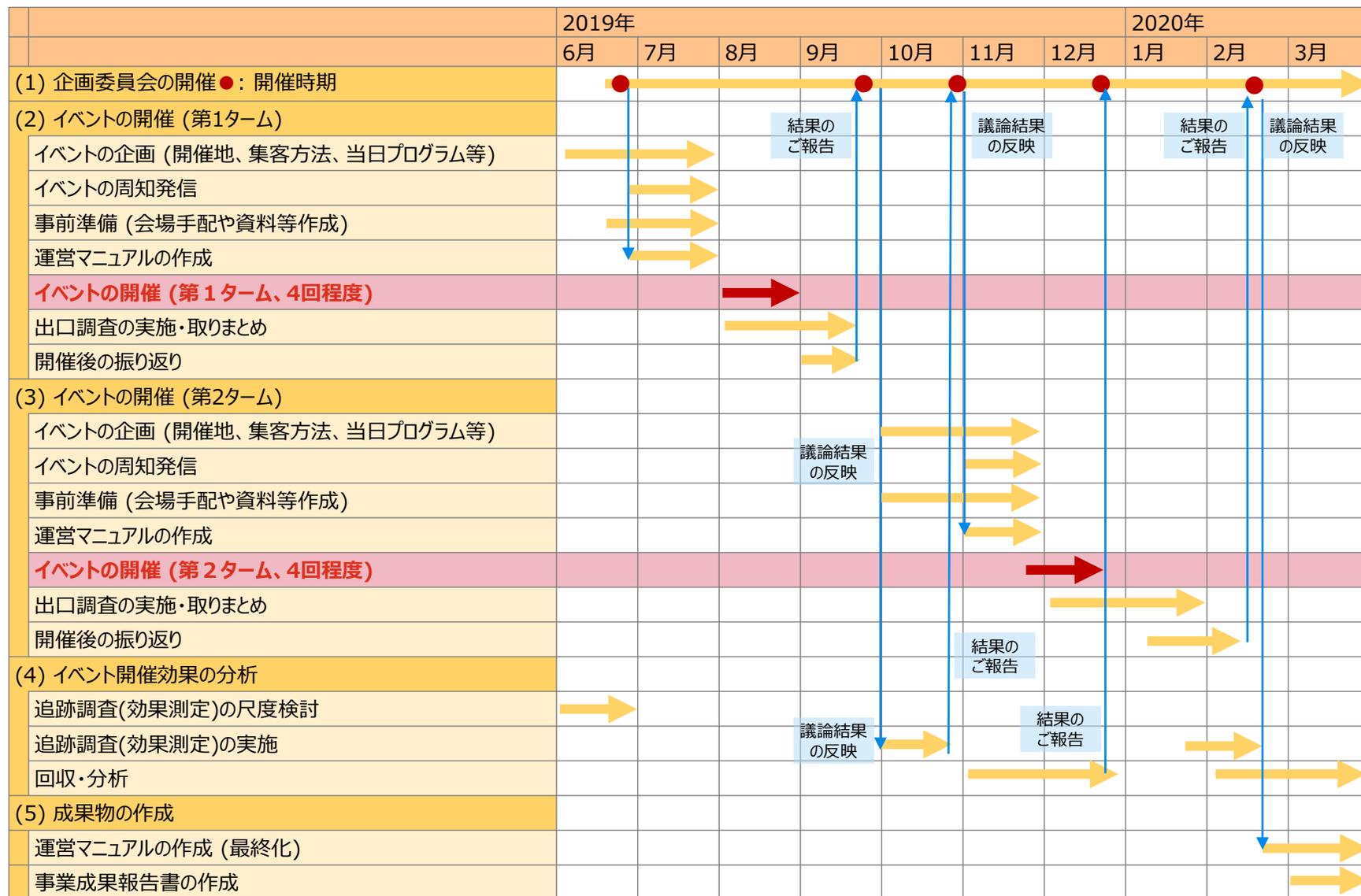
- ✓ 本事業の事業成果として、イベント企画・運営マニュアルの作成を行う。
- ✓ 今後各地方自治体等が介護人材確保に向けた同様のイベントを行う際に、参考に資する資料となることを目的として、本事業により得られた、介護しごとの魅力発信に向けた効果的なアプローチに対する示唆を取りまとめる。
- ✓ 作成にあたっては、2サイクルで実施するイベントを通じて、より効果的に介護人材確保に向けたアプローチ方法について精査を行う。

### 4. 事業成果報告書の作成

- ✓ 上記活動を通じた気づき・成果について成果報告書として取りまとめる。

# 実施スケジュール

本事業では、8月(第1ターム)、年末12月(第2ターム)を目途に、魅力発信イベントをそれぞれ4回程度実施する予定です。  
それぞれのイベントの開催後は、参加者の行動・意識変容の効果測定・分析を目的として、イベント参加者を対象とした追跡調査を実施します。



# 本事業におけるアプローチの方法・考え 1/2 (「アクティブシニア層」に「介護のしごと」を魅力発信することの概要)

第1回委員会での議論を受け、改めて本事業の意義として、「アクティブシニア層の状況」を踏まえた導線への仮説を設定し、そこからアプローチ方法やプログラムを検討するのが良いのではと考えています。「最終的に介護の現場で貢献してくれる方を増やすこと」を目的と捉え、「しごと」を広義に構えた上で、「介護」、「しごと」、「就労」に対する反応を分けて考えた上で、アクティブシニアの日常の行動範囲に網をかけるという手法の効果を実証することを狙います。

## 魅力発信方法を検討する上での、他の潜在的労働者(若年層、子育てを終えた層)と異なる「アクティブシニア層」の特徴 (弊社想定)

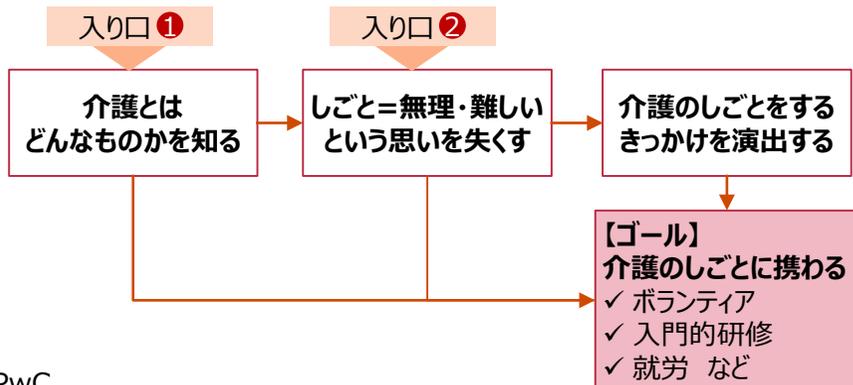
自分が介護されること、あるいは家族の介護をしなければならないという現実が喫緊な状況	介護に対する興味や漠然とした不安が強いと思われ、これらの解消というアプローチが奏功するのではないか
年金受給や定年後というステータス	若年層と比べ、「給与水準」や「生計を立てる上での仕事」というインセンティブを明確に打ち出さなくても良いのではないか
余生というステータス	より社会や地域コミュニティへの貢献・還元をしたいという意識や動機が強いのではないか
これからの人生に対する不安	コミュニティに属する、誰かと一緒に何かをするという機会を欲しているのではないか
これまでやってきたことへの懐古・誇り	これまで社会で培ってきたことを活かし誰かの役に立つという機会(承認欲求の刺激)が動機になるのではないか
介護は大変・難しいという誤解・懸念	介護は「生活と近いものが多々あり、そのお手伝いをする」という非特別感を感じてもらおうと障壁は低くなるのではないか

## 本事業におけるアクティブシニア層に訴求する「しごと」の考え方 (案)

- ✓ 本来のあり方である「報酬を受けてしごとをする」といういわゆる就労は言わずもがな、単に「介護をするにあたって誰かがやらなければならないこと」や「地域の高齢者の生活のお手伝い」などを「しごと」として包括的に捉え、それらの魅力発信(=誤解・懸念の払拭)という位置づけに置いて良いのではないか
- ✓ もちろん「就労→定着」が最終的な目的ではあるが、アクティブシニアに「事業所に来てもらい何かをしてもらうこと」を促せるだけでも人材不足の解消に資するのではないか

## 訴求プロセス(案)

「①から入ってもらい②③と展開」、「②から入る」の2パターンを想定



## 訴求場所・連携団体等

介護のしごとに対し意識・理解がないターゲットに対して、日常の行動範囲にイベントを設ける

- 介護の有効求人倍率が最も高い(東京都等)  
• ベッドタウンでは高齢者が増加中 → **多摩ニュータウン等、東京の郊外**
- 独居老人等が問題となっており、長屋のようなコミュニティが形成されている → **UR賃貸の自治体**
- インフルエンサーがおり、人を巻き込む力が強い → **NPO団体、地域コミュニティ**
- 活発な高齢者が一度に多く集う → **地域の演芸大会、お祭り、イオンモール等**

## 本事業におけるアプローチの方法・考え 2/2 (具体的なターゲットとする「アクティブシニア層」の属性と訴求するメッセージ)

本事業のターゲットとなるアクティブシニア層の状況について、「そもそも介護のしごとを知らないので知りたい」、「しごとをすることに不安を抱えている」、「きっかけがない」という3つに分けられると考えます。どのプロセスにいるか、どの段階を通過するかはアクティブシニアごとに異なりますが、本事業では前者2つのプロセスにいるアクティブシニアをコアターゲットとし、彼らの行動範囲でイベントを開催することで心理的変化を起こし、介護のしごとに関わってもらうことを誘導できるか実証するという形を考えています。

### 本事業は大きく2つのコアターゲットを設定

### きっかけの演出

ターゲット	①「介護」を知らない、しごととして意識していない	②「しごとをすること」になんらかの不安がある	③ 介護のしごとをするきっかけがない
	<ul style="list-style-type: none"> <li>身内を介護した経験がない</li> <li>職場・友人関係等、身近な環境に介護がない</li> <li>自身が将来介護されることを想像できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力的・肉体的に不安</li> <li>時間的な不安(ライフスタイルを壊したくない)</li> <li>人間関係など職場環境への不安</li> <li>今更新しい物事を始めることへの不安</li> <li>従事時の事故や要介護者の方とのやり取りなどの不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近くに介護事業者がないと思っている</li> <li>介護に入ってみるきっかけがない</li> <li>しごと以外にやりたいこと(趣味など)がある</li> <li>時間はあるがやりたいことがない(暇を持て余している)</li> </ul>
狙い・戦略	<p>「家族の介護をしなければならぬが何をしたら良いのか」「自分が将来介護施設に入るのを想像して、どんな環境なのか不安」といった「介護」を対象とし、相談会や「<b>まず介護って何かを知ろう</b>」という趣旨で興味を訴求</p> <p>その中で、事例紹介や体験を通じて「<b>介護のしごと</b>」を紹介し知ってもらうことで、「難しい」という懸念・誤解を払拭 家族や夫婦など同伴で集まってもらうなども一案</p>	<p>健康や退職後の再就職に不安を抱えるアクティブシニアに対して、介護に閉じずに「<b>まず自分の健康、体力、強みを知りましょう</b>」という形でからだ測定に誘引</p> <p>その中で、「何かをすること」全般への後押しをしつつ、棚卸した業務(入門的～専門的)や向いている仕事として「<b>介護のしごと</b>」を紹介</p> <p>合わせて職場や働き方に対する不安も、事例紹介や事業所で働く社員との質疑応答などを通じて働くイメージを持ってもらう</p>	<p>新しい世界に入り込むことを躊躇しているアクティブシニアに対して、イベント・催し物と連動して、巻き込む形で結果的に介護のしごとをしているという状況へ誘致し「<b>とびこむきっかけ</b>」を与えてあげる</p> <p>「仕方ないなあ・・・」といいながらも周りに焚きつけられて、あるいはお願いされてやる、うまくいったら褒める、結果定着するという形で既成事実を作ってしまう</p> <p>敢えて求職セミナーなど就労には関連しないアプローチ・イベントで訴求を図る予定</p>

### 伝えるメッセージ・アプローチ

#### 漠然とした「介護ってどういうもの？」の解消

- ✓ 「介護のしごと」は身近なことで生活の一部
- ✓ 「お世話する人」から「生活を支えるパートナー」へ
- ✓ (親や身内など)これまでの介護経験も活用可能

#### 介護のしごとに慣れ親しんでもらう

- ✓ テクノロジーにより身体的負荷が軽減可能
- ✓ 食事の介助や話し相手、清掃等、日常生活の延長で間接的業務が実施可能

#### 興味を持ってもらう

- ✓ 介護業務の社会貢献度の高さや、少しのことでも人のためになるという楽しさ
  - ✓ 社会との繋がり、コミュニティ参画の手段として有用
- ※訴求のコピーには留意が必要。なるべく、参加者の関心事(我がごととして考えられるトピック)を設定する

#### 「しごとをすること」への後押し

- ✓ これまで培った経験・スキルを活かせる業務がある
- ✓ からだ測定結果等を踏まえ、向いているしごとがある(体力、能力、性格、興味、これまでの経験など)

#### 介護のしごとをまずはやってみる

- ✓ 機会が身近にあることを知ってもらう
- ✓ コミュニティやNPO、世話焼き役などから誘ってもらう
- ✓ やってみるインセンティブを示す

## イベントのコンセプトと開催場所

イベント開催にあたっては、コアターゲットへの訴求・集客のしやすさや効果を踏まえ、①「介護」をキーワードにしたイベントと、②「健康・アクティブなしごと」をキーワードにしたイベントの2つを企画しています。コンセプト毎にイベントの内容を工夫し、それぞれの意識・行動変容が起きるよう訴求していきます。  
そのため、貴地域にて当該コンセプト(①あるいは②、もしくは両方)を実施するに当たり、良い開催場所、集客方法に関してご意見・ご協力を賜りたく考えております。

コンセプト	訴求方法	想定プログラム (順不同)	開催地域(案)	開催場所(案)
<p><b>① 「介護」推し</b></p> <p>「介護」を知ろうというメッセージで参加者を誘引し、そこから「介護のしごと」を紹介</p>	<p>「家族の介護をしなければならないが実際に何をしたら良いのか」「自分が将来介護施設に入ることを想像して、どんな環境が不安」といったアクティブシニアに対し、<b>「まず介護とは何かを知ろう」という趣旨で興味を訴求する</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <b>介護セミナー、介護相談ブース</b>などで介護に対する理解促進</li> <li>2. (1の中で「介護のしごと」やアクティブシニアが働きやすい職場、認証制度などを紹介)</li> <li>3. <b>からだ測定</b>を通じて、強み・興味に沿って向いている仕事として「介護のしごと」を紹介</li> <li>4. <b>介護のしごと体験</b>や<b>展示物</b>を通じてより具体的なイメージを醸成</li> </ol>	<p>京都 東京 (町田・相模原)</p>	<p>身近な問題として、介護に関心のある人が多く集まる場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市役所</li> <li>・介護施設</li> <li>・病院 など</li> </ul> <p>※ 優良な介護事業者のご協力を得ることで実施</p>
<p><b>② 「しごと」推し</b></p> <p>「健康」「再就職」などをキーワードに誘引、「しごと」する動機を高めてもらい、その中で「介護のしごと」を紹介</p>	<p>健康や退職後の再就職に不安を抱えるアクティブシニアに対し、「まず自分の健康、体力、強みを知ろう」という形でからだ測定に誘引し、結果を踏まえて<b>「しごとをしてみませんか」→「介護の現場でやってみませんか」という流れで介護のしごとに誘引する</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「健康チェック」「向いていること発見」などの名目で<b>からだ測定</b>を実施</li> <li>2. <b>しごとセミナー</b>にて、アクティブシニアが活躍しやすい/働きやすいしごとや職場事例を紹介</li> <li>3. (1.2の中でできる・向いていることとして「介護のしごと」を紹介)</li> <li>4. <b>しごと相談ブース、サークル活動告知</b>など、参加後の介護現場への誘引のきっかけを示す</li> </ol>	<p>広島 山形</p>	<p>健康・アクティブな生活維持や誰かと何かをすることに意欲的な人が多く集まる場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館</li> <li>・フィットネスジム など</li> </ul>
<p><b>ふらっと参加</b></p> <p>公共の場などで立ち寄った参加者に対して足を止めてもらうコンテンツと共に「介護のしごと」を紹介</p>	<p>アクティブシニアの日常生活に近いところで仕掛けを設け、まずは<b>集まる、あるいは立ち止まってもらった中で、「介護」や「しごと」に対する前向きな意識を持ってもらう</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「寄席」や「(孫向け)キャラクター呼び込み」等まずは足を止めてもらうため<b>目玉の催し物</b>(介護/しごとと無関係なものも可)と絡めた集客</li> <li>2. <b>からだ測定</b>や<b>介護ロボット体験</b>など誘引策の中でも比較的キャッチーなプログラムを実施</li> <li>3. そこで<b>介護のミニセミナー</b>など、目玉の催し物で滞在する間や前後に介護のしごとを紹介</li> </ol>	<p>11月～12月の開催に向け検討中</p>	<p>シニア層の生活圏内で、集まりやすい場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンモール</li> <li>・地域のお祭り・イベント</li> </ul>

## 開催場所のイメージ

町田、京都、広島、山形で開催するイベントについて、現在、詳細が決まっているものは以下の通りです。

### 町田 8月26日(月)

町田市文化交流センター  
(町田市原町田4丁目1番14号)



### 京都 10月26日(土)

長岡京市中央生涯学習センター  
(京都府長岡京市神足2丁目3番1号バンビオ1番館内)  
※「FUKUSHI就職フェア」と同時開催する予定です。



### 広島① ※日時調整中

CLIP HIROSHIMA(予定)  
(広島県広島市中区東千田町1丁目1-18)



### 広島② 11月9日(土)、10日(日)

県立広島総合体育館 大アリーナ  
(広島市中区基町4-1)  
※介護の日フェスタ in 広島2019内で開催予定です。



※山形については日時・場所を調整中

# 当日のタイムスケジュール 案

「からだ測定」は、どのスポットで来場した人でも参加可能なように、最終受付である15時まで、30分に一度ずつの開催を予定しています。  
 「からだ測定」の前後(結果FB待ち等)で、セミナー、体験イベントの参加など、参加者自身の興味・関心に応じて時間を使えるコンテンツを準備するとともに、必要に応じて休憩・飲食等スペースも用意し、休憩の間に適宜「しごと」や「介護」など、参加者の関心に応じた参考情報を閲覧できるように工夫します。

	時間	ブースごとのフロー					
		からだ測定	セミナー	体験型イベント	相談窓口	展示物	休憩・情報閲覧
会場オープン	7:30	測定から結果FBまで30分空け、その間に右記他のコンテンツへと誘導					
会場設営	7:30-9:30						
本編 (15時最終受付)	9:30-10:00	測定1					
	10:00-10:30	測定2	しごと1	体験1			
	10:30-11:00	測定3	FB1				
	11:00-11:30	測定4	介護1	体験2			
	11:30-12:00	測定5	FB2				
	12:00-12:30	測定6	しごと2	体験3			
	12:30-13:00	測定7	FB3				
	13:00-13:30	測定8	介護2	体験4	随時実施	随時見学	適宜
	13:30-14:00	測定9	FB4				
	14:00-14:30	測定10	しごと3	体験5			
	14:30-15:00	測定11	FB5				
	15:00-15:30	測定12	介護3	体験6			
退場	16:00-16:30	FB6	しごと4				
片づけ・会場撤収	16:30-17:30	FB7					
会場クローズ	17:30	FB8					

セミナーと体験イベントの開催時刻を30分ずらすことで参加者の動線を確保

展示を見る、休憩などは先のスケジュールがあるもの二関係なくいつでもいけることが可能

参加者の時間の余裕次第で、からだ測定と合わせてセミナー2回参加、あるいはそのまま帰るなど柔軟に対応

## 現在の検討事項

本事業で企画しているイベントは、アクティブシニア層に対する介護のしごとの魅力発信に資する、業務の切り分けなどアクティブシニアの方々が働きやすく活躍できる環境作りにお取り組みされている優良な事業者があり、周知広報や開催において地域での連携・ご協力が得やすい地域にて実施できればと考えています。ご興味をお持ちいただける自治体様、あるいはご推薦されたい地域や自治体様、事業者様などございましたら、是非ご紹介、お問合せいただけますと幸いです。

### 弊社が想定する優良な事業者の例

業務の棚卸(負荷や難易度に応じた切り分け)ができており、高齢者に業務を任せている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入浴介助・排泄のお世話等といった専門的なケア業務から、食事介助・話し相手等といった比較的ハードルの低い業務まで、多様な業務の負荷と難易度について整理し、業務の割り振りを行っている</li> <li>✓ 従業員へ業務を任せる際は、難易度や初心者かどうかを考慮した上で仕事を依頼している</li> </ul>
地域の高齢者と密接に繋がっており、ハブとしてネットワークを築いている	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 事業者内外でイベント等を積極的に開催しており、施設利用者以外の高齢者とも交流が盛んである</li> <li>✓ NPO法人、活動団体と連携して活動しており、地域貢献にも携わっている</li> <li>✓ 介護事業者としてのみでなく、コミュニティのハブとしての役割も担っている</li> </ul>
従業員として高齢者が既に活躍している	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高齢者の採用に成功しており、かつ高齢者従業員の定着率が高い</li> <li>✓ 従業員の平均年齢が比較的高い</li> </ul>
人員の採用に積極的に取り組んでおり、採用ノウハウが充実している	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 人員採用の為に工夫を凝らした取り組みを実施している</li> <li>✓ 就職フェア等に積極的に参加している</li> <li>✓ 採用実績があり、人材確保のノウハウが確立されている</li> </ul>
ICT等の最先端テクノロジーの利活用に積極的	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 介護ロボットやセンサー付きベッド等、最新テクノロジーを積極的に導入し、効率的に業務を回そうと試みている</li> </ul>
時短勤務等の柔軟な働き方を推奨している	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 週5フルタイム勤務のみの募集ではなく、プライベートに合わせた働き方を推奨している</li> <li>✓ 様々な業務形態の従業員のスケジュールを組み込み、業務を円滑に回している</li> </ul>

### ご協力をお願いしたい、あるいはご意見を伺いたい事項

開催会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当該イベントの開催にあたりお勧めの開催場所の提案・ご助言(十分な広さがある・交通の利便性が良い・アクティブシニア層が多く集まる 等)</li> <li>・ (上記がある場合)どのように開催場所の運営企業・団体にアプローチするか、ご担当者様のご紹介などは可能か</li> </ul>
周知広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アクティブシニア層に対する周知発信・広報方法の提案・ご助言(発信媒体・アプローチ方法 等)</li> <li>・ (上記がある場合) どのように媒体・掲載場所の運営企業・団体にアプローチするか、ご担当者様のご紹介などは可能か</li> </ul>
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントを開催するにあたって、入れるべきコンテンツの提案・ご助言</li> <li>・ コンテンツ面で協力すべき企業・団体等のご助言(相談会ブースの相談役・セミナーの登壇者 等)</li> <li>・ (上記がある場合) どのように媒体・掲載場所の運営企業・団体にアプローチするか、ご担当者様のご紹介などは可能か</li> </ul>

# Thank you

[pwc.com/jp](http://pwc.com/jp)

【本資料に関するお問合せ先】

PwCコンサルティング合同会社 公共事業部

千葉 竜太 : 090 9846 6934

田村 亘 : 080 4192 8296

[jp\\_cons\\_mhlw\\_active\\_senior@pwc.com](mailto:jp_cons_mhlw_active_senior@pwc.com)

© 2019 PricewaterhouseCoopers Aarata LLC, PricewaterhouseCoopers Kyoto, PwC Consulting LLC, PwC Advisory LLC, PwC Tax Japan. All rights reserved. PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see [www.pwc.com/structure](http://www.pwc.com/structure) for further details.

This content is for general information purposes only, and should not be used as a substitute for consultation with professional advisors